266

拡張型心筋症における運動負荷時の左右心機能 の評価

勝賀瀬貴、中駄邦博、塚本江利子、藤森研司、伊藤 和夫、古舘正従(北大 核)

宮本篤,小林毅,安田寿一(同,循内)

拡張型心筋症を対象として、運動耐容能並びに運動 時の右室及び左室機能との関係について心臓核医学的 方法を用いて検討した。

健常例 10 例と拡張型心筋症 6 例に仰臥位自転車エルゴメーターを用いた多段階運動負荷を行なった。右心機能の評価はKr-81m 持続注入法により行ない、左心機能はTc-99m-RBCによるマルチゲート心ブール法により解析した。

健常群では、運動負荷により右室及び左室拡張終期 容積の減少があった左室収縮能の指標である収縮期血 圧/容積比は増加し、右室及び左室の駆出分画は増加 する傾向をみた。拡張型心筋症群では、運動持続時間 は短く、健常群に比して血圧上昇反応に差がみられた。 左室拡張終期容積は高値を示し、収縮期血圧/容積比 や左室駆出分画の増加も明らかでなかった。拡張型心 筋症の症例では、左心のみならず右心の機能障害の存 在も示唆された。 267 拡張性心筋症における肺内血流分布の特徴 田中 健,川越康博,笠貫 宏,木全心一,関口守衛, 広沢弘七郎(東京女子医大心研)

牧 正子, 日下部きよ子, 重田帝子(同 放射線科)

拡張性心筋症 (DCM)における肺内血流分布異常をデジタル肺血流像 (DPI)を用いて検討した。Tc99m-MAAは被検者を坐位にして静注した。DPIの定量化は70%と30%の高さにおけるカウント比 (distribution index:DI)によって行った。 DCM 40 症例において下肺野に高肺血流域が限局する正常分布像から、下肺野の血流が減少し、高肺血流域が上肺野に限局した著明な異常分布像までが認められた。

**268** 特発性肥大型心筋症における運動負荷時の 血行動態と臨床像との比較検討一心プールイメージングを用いて一

大坪恵子, 広江道昭, 日下部きよ子, 重田帝子, 堀江俊伸, 関口守衛, 広沢弘七郎 (東京女子医大 心研内科, 放射線科)

肥大型心筋症25例に対して多段階運動負荷心プール イメージングを施行し,その左室血行動態と臨床像, 心電図, 超音波検査, 心筋生検所見などとの比較検討 を行なった。運動負荷時の駆出率(EF)の増加が安静 時の5%以上のものをEF増加群(13例), 5%未満のも のをEF減少群(12例)とした。両者間に安静時駆出率 の差は認められなかった。臨床症状および諸検査所見 については、有意差は認めなかった。しかし VT,多 源性 PVC の出現がEF減少群では50%例, 増加群では 10%例にみられ、特にVT出現例はすべてEF減少群 であった。心筋生検所見では肥大錯綜配列陽性はEF 減少群40%, 増加群38%, 変性陽性は減少群33%, 増 加群38%と有意差は認められなかった。肥大型心筋症 においては重症不整脈の有無が予後を考える上で大き な要因となっているが、 心電図上不整脈を認めない症 例においても運動時駆出率の増加が見られないものは, 注意深い経過観察が必要であると思われる。

269 虚血性心疾患における安静時及び運動負荷 時の心機能並びに局所壁運動に及ぼすニトログリセリンの効果-First pass RIアンギオによる検討-吉野孝司,松村龍一,小林 亨,筆本由幸(大阪

府立成人病センター 循環動態診療科)

安静時 (R) 及び運動負荷時 (E) の左心機能並びに左 室局所壁運動に及ぼすニトログリセリン(N)の効果に ついて検討した。EF, EDV, ESV, SP/ESV( 収縮期血圧 / 左室収縮末期容量)などからみた左心機 能は,狭心症群(AP)では,Eで低下し,またN投与 後運動負荷 (NE) でも低下したが, Eに比べ軽度であ った。心筋梗塞群(MI)では,左心機能はRで既に低 下していたが、N投与後(NR)には改善した。Eでは 左心機能は低下し,またNEでも低下したが,Eに比 べ軽度であった。左室局所壁運動の指標とした局所駆 出率(REF)は、AP群及びMI群共にEで低下を示 した。AP群ではNEでのREFは低下したが、Eに 比べ軽度であった。MI群では,NEでのREFはR とほぼ同様であった。Nは、MI群並びにAP群共に 運動負荷での心筋虚血の程度を軽減し,MI群では安 静時の左心機能を改善した。